

女性研究者支援モデル育成事業
(科学技術振興調整費)

女性研究者支援モデル育成（科学技術振興調整費）

平成19年度概算要求額：
科学技術振興調整費47,400百万円の内数
（平成18年度予算額：500百万円）

- 目的：優れた女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、大学や公的研究機関を対象として**女性研究者が研究と出産・育児等を両立するための支援を行う仕組みを構築するモデルとなる優れた取組**を支援する。
- 対象機関：大学、大学共同利用機関、国立試験研究機関及び独立行政法人
（自然科学全般又は自然科学と人文・社会科学との融合領域を対象に研究を行っていること）
- 実施期間：原則3年間
- 実施規模：平成18年度採択10機関（1機関あたり年間2～5千万円程度（間接経費を含む））

「日本の女性研究者の数及びその割合は増加傾向にあるものの、全体に占める割合は依然として国際的に見ても少ない。また、指導的な地位に女性が十分登用されていないなどの指摘がある。女性研究者の育児責任は男性に比較して大きく、出産・育児によって研究活動を十分に継続できない女性研究者も多い。」（17年度版男女共同参画白書より）

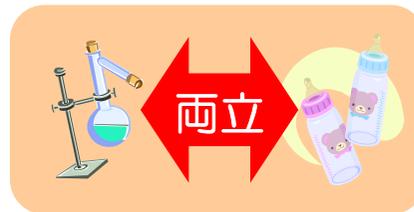
優れた女性研究者を輩出する システムの確立と波及

公募により、各機関のモデルとなる優れた取組を支援。
3年の支援終了後は各機関において独自に予算措置。

期待される女性研究者の採用目標の達成の前提として、
環境整備のみならず意識改革の着実な実施が必要。

＜選定に当たっての要件＞

- ◇ 女性研究者を積極的に登用するための取組状況（行動計画の策定、推進体制の整備など）
- ◇ 支援対象となる女性研究者の人数や今後の増加の見通し



支援ニーズに対する取組例

- 大学等における出産・育児と研究の両立や男女共同参画に関する相談体制（カウンセラーの配置など）
- 出産・育児期間中の業務負担を軽減するためのシステム作り（柔軟な勤務態勢の工夫など）
- 育児の状況等に応じて、フルタイムでなく、パートタイムで働ける環境の整備（研究支援者の配置など）
- 女性理工系学生が研究者の道にチャレンジすることを促進する施策（若手女性研究者との交流の場の設置、女性理工系学生向けのキャリアパス相談の充実化等）

平成18年度科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」採択課題一覧

優れた女性研究者がその能力を最大限発揮できるようにするため、大学や公的研究機関を対象として女性研究者が研究と出産・育児等を両立するための支援を行う仕組みを構築するモデルとなる優れた取組を支援する。

提案課題名	機関名	課題概要
保育とワークシェアによる女性医学研究者支援	東京女子医科大学	指導的な立場となる優れた女性医学研究者の育成を最終目標として、日本の医学研究を支え、リーダーシップを取れる女性医学研究者の育成のモデルを形作ることを念頭におき、子育てをしつつ医学研究を遂行する女性医師の育成を実施する。女性医学研究者支援室を設立し、女性医学研究者支援委員会が女性医学研究者を指導、監督、支援、審査、評価する。「保育支援」として「病児保育」を開始し、子育て中の若手女性医師の登録制によって、研究と育児の両立可能な環境を整備する。「研究支援」として「ワークシェア」、「フレックス制」、研究費の支給によって、子育て中の女性医師に研究の推進、学会発表、論文発表の機会を与え、研究の遂行を可能とするシステムを構築する。先輩女性医師や心理職によって構成される「サポート委員」が若手女性医学研究者の相談に乗りカウンセリングを行うシステムを作成する。「研究成果発表会」「女性医学研究者交流会」によって、女性医学研究者同士が切磋琢磨し意見交換ができる場を構成する。「保育支援」「研究支援」により、本学における若手女性医師の支援体制を発展させる。
地域連携によるキャリアパス環境整備	熊本大学	本事業では、女性研究者育成支援のため、次の項目の実施による制度改善・意識改革・キャリアパス環境整備を目指す。この取り組みに当たり、熊本県男女共同参画センター、子育て支援NPO、地域企業と緊密に連携しながら推進する。なお、(3)については、ライフサイエンス関連部局で当初実施し、速やかに他部局への拡大を図る。 (1)コーディネーター制度の創設と全学的な男女共同参画の推進 (2)勤務体制に関する環境整備 (3)研究と育児・介護を両立するための研究代替員の対応、研究費の予算配分としての助成及びITを使った在宅勤務のサポート体制の構築 (4)地域連携・人材データベース化によるキャリアパス創出
女性研究者の包括的支援「京都大学モデル」	京都大学	京都大学は、優れた教育・研究機関として、内外に認められており、有能な研究者が世界第一線の研究を展開している。その中で、女性研究者の貢献が非常に大きいにもかかわらず、その比率は、近年急激な増加傾向にあるとはいえ、依然として数%に留まっている。本業務では、京都大学女性研究者支援センターを設置し、その下で女性研究者に対する包括的支援プログラムを実施する。そして、女性研究者が抱える問題を解決し、研究環境を改善することにより、卓越した女性研究者を生み出していくための「京都大学モデル」を構築することを目的とする。
理系女性のエンパワメントプログラム	東京農工大学	本事業では、女性キャリア支援・開発センターを新設し、コーディネータや研究支援員を新たに配置して、支援活動を実施する。具体的な方策は次の4項目である。(1)大学として目標値を明示した男女共同参画推進のポリシーと行動計画を策定する。(2)女子学生や女性若手研究員をエンカレッジして研究者の道にチャレンジするように、キャリアガイダンスやメンター制度を整備する。(3)出産・育児・介護に伴う負担の軽減を目的として研究支援員を配置して研究の継続を強力に支える。(4)卒業生ネットワークを構築して「母校に戻ろうキャンペーン」を実施し、卒業生が社会人大学院生として学ぶと共に、研究支援員として雇用される機会を作る。これら対策により、女子学生が果敢にチャレンジして女性研究者が育ち、若手女性研究者が出産や育児に遮られずに継続的に研究することが可能となり、介護に伴う女性教員の負担も軽減され、全学的取り組みによって女性教員の採用推進につながる。
女性研究者マルチキャリアパス支援モデル	日本女子大学	本プロジェクトの目的は「出産・育児と研究活動の両立支援」および「女性研究者の活躍の場の拡大」である。実現させるために①ユビキタスリサーチによる支援、②ヒューマンリソース支援、③調査・企画の3つを柱として実施していく。出産育児で研究を中断する女性研究者に対して自宅から研究を継続できるシステムを整備し、研究活動の低下を最小限にとどめる支援をする。そのために支援要員の確保、自宅から大学に遠隔的にアクセスできる環境整備などを実現する。支援要員を非常勤研究助手として採用する制度を設け、一度は研究の道を断念した卒業生に研究現場復帰の道をひらく。教員、非常勤研究助手のキャリアを電子情報(eポートフォリオ)として蓄積し、就職活動に活用し、また本学教員・卒業生を中心とした人材を結集し有効活用することで、女性研究者をとりまく諸問題の相談業務を実現する。さらに女性研究者のキャリアパスに対する実態・意識調査とフィードバックや、女性研究者がさまざまな場所で活躍できることを示す活動、産学連携など就職に結びつける活動を通して、女性研究者数の拡大を促す。

<p>社の都女性科学者 ハードリング支援事業</p>	<p>東北大学</p>	<p>本事業は本学の男女共同参画体制の早期実現に向けて、特に本学自然科学系分野における女性科学者のキャリアパスに障害となっている様々なハードルを乗り越えるための制度を確立することを目的とする。学内に「女性研究者育成支援推進室」を設置し、(1)育児・介護支援(2)環境整備(3)次世代育成の3つのプログラムを実施することにより、自然科学系部局における男女共同参画の推進と次世代の若手女性研究者の育成を図る。</p>
<p>研究者養成のための 男女平等プラン</p>	<p>早稲田大学</p>	<p>全学的な合意形成を図りながら、理工系を中心とした女性研究者の育成・支援モデルおよび、継続的なサポート体制を確立し、私立総合大学としてのモデルケースを目指す。女性研究者を目指す学生・大学院生の意欲を引き出し、本学教職員の意識改革等を図ることにより、本課題実施期間終了時において、女性教員の比率を25%にすることを目標として、以下を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 共同参画推進室の設置 2. 女性研究者総合サポートセンターの開設と支援者(コンシェルジュ)の養成・環境整備 3. 女性研究者育成のための教育・交流事業の実施 4. 研究中断者実験・研究補助員の採用 5. 先進的取組みの海外の大学との情報交換
<p>生涯にわたる女性 研究者共助システム の構築</p>	<p>奈良女子大学</p>	<p>民間の育児支援グループと協力して、育児支援ネットワークを構築する。出産・育児・介護等に携わる女性教員と博士後期課程修了者等の支援として教育研究支援員制度を設け、実施する。女性の生涯にわたるキャリア形成のための複合支援システムを構築する。自治体と連携して科学講座等を開催し、科学分野への女子生徒等の興味・関心の喚起・向上をはかる。男女共同参画実現へ向けて、大学の教職員研修のための講演会を実施する。</p>
<p>女性研究者に適合 した雇用環境モデル の構築</p>	<p>お茶の水女子 大学</p>	<p>本事業の目的は、女性研究者を積極的に育成するために、「女性研究者に適合した雇用環境モデル」を構築することである。この目的を実現するために「女性研究者を取り巻く研究環境の質的・量的整備」として、様々な女性研究者支援メニューの提供、勤務時間9時から5時の徹底化、学内保育所の充実と隣接する独身寮の整備を行うと共に、「女性研究者支援のための情報環境の整備」として「情報バンク」を設置し、「女性研究者育成のための人的交流」として、ロールモデルによる若い理工農系女性への啓発活動とロールモデルのDVD化を実施する。本業務の最終目標は、「勤務時間9時から5時の徹底化」を実現させることによって、「仕事と家庭」を両立させる21世紀型ライフスタイルの実践例を示すこと、女性研究者のための「様々な支援活動」と「意識改革の試み」に対して、それらの有効性と実行可能性を検証してその評価指標を他研究機関へ波及させること、ロールモデルによる女子学生の啓発活動とロールモデルの諸活動のDVD化によって、理工農系を志す女性を増やし社会の認識と理解を高めることである。</p>
<p>輝け、女性研究者！ 活かす・育てる・支 えるプラン in 北大</p>	<p>北海道大学</p>	<p>女性研究者が活躍しやすい環境を整備し女性教員・女性研究者増員に具体的に取り組むために、事業拠点となる女性研究者支援室を開設し、「北大全研究者の中の女性研究者比率を2020年までに20%に！」という目標達成のための組織改革・基盤体制作りを行う。女性研究者支援室は女性研究者に特化した各種支援・情報等のワンストップ窓口サービス機能をもつものとする。</p>